

第15回APCTP日本委員会会合議事録

日時：2016年12月22日（木）午後3時から午後5時30分まで

場所：理化学研究所和光キャンパス研究本館248号室

出席者（順不同、敬称略）：河本昇（北海道大学）、藤川和男（理化学研究所）、初田哲男（理化学研究所）、押川正毅（東大物性研）、磯暁（KEK）、多田司（理化学研究所）

TV会議で参加；佐々木節（京大基研）、大西明（京大基研）、横山順一（東大ビッグバン宇宙国際研究センター）

Skypeで参加；保坂淳（大阪大学RCNP）

欠席者（順不同、敬称略）：菅原寛孝（沖縄科学技術大学院大学）、九後汰一郎（京都産業大学）、橋本幸士（大阪大学）、肥山詠美子（理研仁科センター）、川村光（大阪大学）、遠山貴己（東京理科大学）、井岡邦仁（京大基研）、吉田直紀（東京大学）

1. 前回議事録承認

第14回APCTP日本委員会会合の議事録案が原案どおり承認された。

2. APCTP理事会報告

2016年3月、7月、11月に行われたAPCTP Board of Trustees Meetingについて、理事である藤川委員から報告が行われた。3月の理事会は設立20周年の節目と重なり、アカデミックなプログラムも充実していたとのことであった。7月の理事会については藤川委員が欠席したため理事会の議事録を用いて説明された。特に、APCTPのためには外国人の所長が望ましいことを理由にLee所長が任期の更新を望まないことを表明し、11月の理事会の当日付を持って辞任したことが報告された。

河本委員長からLee所長の進退について補足があり、ご本人は改革に意欲的であり、もう一期所長を務めることを想定していたはずであるが、APCTPの予算の獲得のために政府関係者と接触するうち、APCTPの予算獲得のためには自らが退き外国人の所長を迎える必要があると考えるに至った、という説明があった。新所長のサーチ委員会の構成について質問があった。

3. General Council報告

2016年3月に行われたGeneral Councilについて出席した押川委員から報告があった。これまで韓国人のみで構成されていたプログラムコーディネーターに押川委員を含めて3名の外国人が加わることになったが、その後実際には押川委員に相

談等はないとのことであった。横山委員からGeneral Councilの役割と現状について補足があり、研究会への支出予算がほぼ同程度の京大基礎物理学研究所の研究部員会議のような役割を果たすべきところそのように機能していないことなどが論じられた。

4. メンバーシップフィーの支払いについて（報告）

2016年のメンバーシップフィーについて、KEKへ送付された請求書に基づき、KEKからの支払の後、KEKから東大物性研、阪大RCNP、東大ビッグバンセンター、理研仁科加速器研究センター、京大基研へ均等割の請求書が送られ、支払いが完了したことが報告された。分担した研究機関に謝意が表された。

5. 次期委員について

2017年3月31日で任期が満了となる委員について、選出母体の各コミュニティに後任の指名を依頼した結果が報告された。結果は以下のとおり：

物性グループ 川上則雄氏（京大理）

原子核サブグループ 原田正康氏（名古屋大学）

理論天文学宇宙物理学懇談会 佐々木節氏（京大基礎物理学研究所）

素粒子論サブグループ 河本昇氏（北海道大学）

また研究機関選出委員で2017年3月31日に任期の満了を迎える委員については、各研究機関で重任含めて後任を選出して頂くようお願いした。

関連して監事をお願いしているKEKの原課長について、正式な兼業の手続きが取れていないことが磯委員から紹介され、今後は正式な委嘱状を出すようにAPCTPに働きかけることとされた。

6. タスクフォースチーム報告

Lee所長からの諮問を受けて河本委員長が加わって作られた改革のためのタスクフォースチームの経緯と活動について、河本委員長から説明があった。

International hubとして機能していない現状、韓国内の他の研究機関KIAS及びIBSとの差異化の問題、Permanentな研究者がいない問題点、メンバーシップフィーの問題点などが議論されたこと、及び議論の結果を近くレポートしてまとめる予定であることが報告された。コメントを求められた磯委員からKEKの実験グループで行われているアジアの学生に対するスクールの現状が紹介され、同様のことをAPCTPでやることの意義が、お金を出すだけに終わると逆に存在意義が問われる、などの問題点も含めて議論された。磯委員からはAPCTPにポスドクとして在籍した若手研究者から見た問題点が紹介された。このほかメンバーシップフィーの使い方についての質問が出された。

7. General Councilの推薦

2017年1月より任期が始まる日本からのGeneral Councilとして、現任の押川委員に

加えて、初田委員、磯委員を推薦することとなった。

8. その他

退任したLee所長に謝意を表して下記を決議し、表明することとなった：

An open statement adopted at the 15th meeting of the Japanese committee for APCTP

In our previous meeting of the Japanese committee for APCTP which was held on December 24th, 2015, we were honored by the presence of the president of APCTP, Prof. Bum-Hoon Lee. The Japanese committee was impressed by President Lee's vision, leadership, and devotion. We envisioned a bright future for APCTP and expected fruitful cooperations with the Japanese research communities that would last for coming years under President Lee's leadership.

Only one year later, we regret to learn the parting of Prof. Lee as the president of APCTP. We sincerely hope that this incident wouldn't result in a grave setback for APCTP and the collaboration among the participating member countries. We believe in the vision that was shown by Prof. Lee a year ago and now urge all the parties involved in APCTP to follow the path that Prof. Lee has shown despite his absence as the leader. Here we would like to express our respect and gratitude to Prof. Lee for his great service and contribution to APCTP and its community.

December 22nd, 2016

The Japanese committee for APCTP